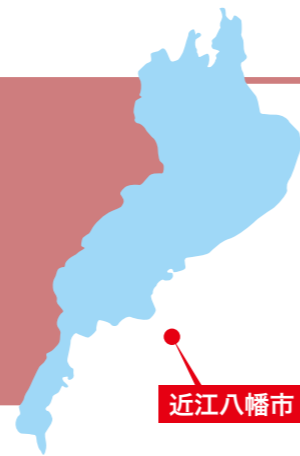


- 区分 / 平山城
- 築城 / 1585年(天正13年)
- 城主 / 豊臣秀次、京極高次
- 遺構状態 / ★★★
- 取材日 / 2012年9月10日



近江八幡市

不遇の関白・豊臣秀次が整備した城下町

基盤の目のように美しく整備された城下町——八幡商人の商家が残る古い町並みを歩くと、道筋から標高285mの八幡山(別名鶴翼山)を望むことができる。この山頂に、豊臣秀吉の甥でのちに秀吉の養子となった羽柴(豊臣)秀次の八幡山城があった。天正13年(1585年)、秀次が若干18歳のとき近江43万石が与えられ、築城とともに城下町の建設に情熱を注いだ。安土城下から多くの民を移し、有力な商人を集めて商業都市としてのまちづくりを進めたという。職種別に町割を行い、交通の要衝として下街道(のちの朝鮮人街道)を引き込み、八幡堀を琵琶湖とつないで運河として活用した。

秀次はのちに尾張清洲城に移るが、文禄4年(1595年)、秀吉の後継者をめぐる争いから、謀反の罪を着せられ高野山で

切腹させられる。享年27歳。八幡山城は廃城となったが、秀次が整備した都市基盤は受け継がれ、近江商人の町として繁栄した。町の開祖として秀次が今も市民から慕われているのがよくわかる。

山頂の本丸跡にある瑞龍寺(村雲御所)は、秀次の母である日秀尼が秀次の菩提寺として創建したもので、昭和37年に京都から現在地に移された。境内からは秀次が築いた城下町が一望できる。

曲輪と石垣をめぐる城跡からの眺望を満喫

城跡のある八幡山山頂までは八幡山ロープウェーで簡単に登れるが、南麓の日牟禮八幡宮から八幡山城跡、北之庄城跡を経由して、北麓の百々神社に至る八幡山縦走のハイキングコースがあるので、これを利用することにする。

日牟禮八幡宮横の登山口(里山ハイキ

〈アクセス〉

● JR近江八幡駅から長命寺行きバスで大杉町下車、日牟禮八幡宮まで徒歩5分、山頂まで約30分。

〈観光に関するお問い合わせ〉

■ (社)近江八幡観光物産協会 TEL.0748-32-7003



秀次館跡が発見された山麓の居館跡を探訪

八幡山城は、織豊期の城郭としては珍しく、山頂の城郭部分と山麓の居館部分に分かれているのが特徴だ。南西山麓に家臣団の屋敷群があったと考えられていて、2001年には豊臣秀次の居館建物の礎石群が発見されている。堆積層から金箔瓦の破片も多量に出土し、秀次の馬印である沢瀉(おもだか)紋の鬼瓦も確認されて話題となった。市立図書館裏の山腹にある八幡公園の西端がかつての大手道で、この最上部に秀次館の遺構がある。谷筋のアプローチを登ると正面に高石垣が現れる。入り口は内柵型の虎口になっているようだ。遺構は藪に覆われていた。



秀次館跡の高石垣。隅は算木積みで大きな石が使われている。



本丸跡の高石垣。周遊歩道から見上げるととても風格がある。



八幡山城縄張り概略図

① 本丸(瑞龍寺)

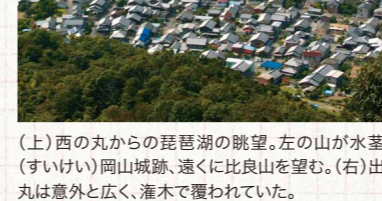
山の最頂部が本丸跡で、現在は日蓮宗門跡寺院の瑞龍寺の本堂が建つ。本丸の西北隅に15m四方の天守台があったと推定される。山門を通る石段は内柵型虎口になっていて、本丸と二の丸をつなぐ導線は、侵入してきた敵を横から弓矢や鉄砲で迎え撃つ構造になっているという。



(左) 瑞龍寺の山門。防御性の高い内柵型虎口になっている。(右) 瑞龍寺本堂前から近江八幡の城下町を望むことができる。

② 西の丸・出丸

八幡山の西端にある曲輪が西の丸。城郭の中で最も広い眺望が堪能できる場所だ。地表には礎石跡らしきものが露出していて、ここに建物が建っていたと想像できる。ここから南尾根を下ると小規模の石垣があり、その先が出丸になっている。曲輪は西の丸より広い。



(上) 西の丸からの琵琶湖の眺望。左の山が水葦(すいけい)岡山城跡、遠くに比良山を望む。(右) 出丸は意外と広く、灌木で覆われていた。

③ 北の丸

本丸の北側にある北の丸の展望広場。三角点は本丸のある最頂部より低いこの地にあった。ハイキングコースの八幡山縦走路はここから北側の尾根に続く。この先にも堀切や土橋と思われる遺構が確認できる。このまま北之庄城跡を探訪するのもいいだろう。



北の丸の展望台。西ノ湖、安土城跡を望む。